

2 0 2 0 年 6 月 2 4 日

東日本旅客鉄道株式会社
水戸支社長 小川 一路 殿

J R 東日本輸送サービス労働組合
水 戸 地 方 本 部
執 行 委 員 長 黒 澤 純 一

常磐線全線運転再開時の形式的な教育・訓練によって発生した不安・不満を
解消し、本来の目的達成に向けた教育・訓練の充実を求める申し入れ

2 0 1 1 年 3 月 1 1 日 1 4 時 4 6 分 に 発 生 し た 東 日 本 大 震 災 及 び 福 島 第 一 原 子 力 発 電 所 事 故 から 9 年 が 経 過 し ま し た 。 こ の 間 、 段 階 的 な 区 間 開 通 を 実 施 し 、 2 0 2 0 年 3 月 1 4 日 に 最 後 の 不 通 区 間 で あ っ た 「 常 磐 線 富 岡 駅 ～ 浪 江 駅 間 の 運 転 再 開 」 に よ り 常 磐 線 は 全 線 開 通 と な り ま し た 。

こ の 全 線 開 通 に よ り 、 J R が 交 通 公 共 機 関 と し て の 役 割 で あ る 地 域 住 民 の 方 々 に 対 す る 移 動 手 段 の ひ と つ と し て 確 保 ・ 拡 大 さ れ 、 被 災 地 域 の 復 興 と 更 な る 地 域 住 民 の 帰 還 が 期 待 さ れ ま す 。

し か し 、 一 方 で 福 島 第 一 原 発 事 故 に 伴 う 帰 還 困 難 区 域 の 内 、 双 葉 町 ・ 大 熊 町 ・ 富 岡 町 の 特 定 復 興 再 生 拠 点 区 域 内 に あ る 一 部 地 域 が 2 0 2 0 年 1 月 1 7 日 の 先 行 解 除 を 受 け て の 全 線 運 転 再 開 で あ り 、 3 町 の 大 部 分 は 未 だ に 帰 還 困 難 区 域 に 指 定 さ れ て お り J R 用 地 外 は 未 だ に 高 線 量 区 間 が 多 数 存 在 し て い る 現 実 が あ り ま す 。

全 線 開 通 を 伴 っ た 2 0 2 0 年 3 月 ダイヤ改正から 3 ヶ月が経過しましたが、今なお組合員からは、運転再開区間の乗務や周辺区域での作業に対する被ばくや放射線量への不安、そして「列車が長時間停車した場合」、「避難経路や避難箇所」、「列車から救済バスまでの誘導」、「小動物と衝突した場合の対応や処理方法」「線路内及び架線等での支障物対応」など、「富岡駅～浪江駅間」での異常時取扱いに対する不安の声が系統問わず多く発せられています。

こ の よ う な 声 の 原 因 は 、 運 転 再 開 前 の 教 育 ・ 訓 練 や 周 知 が 不 十 分 で あ っ た 結 果 で あ り 、 現 場 で 働 く 組 合 員 ・ 社 員 が 日 々 の 業 務 を 安 全 か つ 安 心 し て 担 う た め に も 、 必 要 な 教 育 ・ 訓 練 を 改 め て 実 施 し な け れ ば な ら ぬ と 考 え ま す 。

さ ら に 、 発 生 が 予 測 で き な い 異 常 時 の お 客 さ ま の 避 難 ・ 誘 導 に は 、 迅 速 か つ 的 確 な 状 況 判 断 が 求 め ら れ る こ と か ら 安 全 の 確 保 を 大 前 提 に 、 組 合 員 ・ 社 員 の 不 安 解 消 に 向 け た 再 教 育 ・ 訓 練 の 早 期 実 施 を 求 め 、 下 記 の と お り 申 し 入 れ ま す の で 、 会 社 の 誠 意 あ る 回 答 を 求 め ま す 。

記

1. 常磐線全線運転再開に向けて実施した教育・訓練内容について系統毎に明らかにすること。

また、現状を把握し不安解消に向けた教育・訓練を直ちに実施すること。

以 上